About HANDLY - apparels -

Q1　まずは自己紹介。HANDLYとは？

私たち夫婦がアメリカ滞在の経験をきっかけに創業したのが「HANDLY」です。アメリカのブランドにこだわり、パートナーは車やオートバイ関連の輸入販売を、私は長くアパレル業界に携わってきた経験を活かしアパレルを担当しています。

スタートは、アメリカの老舗アイウェアブランド Croakies（クロッキーズ）の取扱いから。そこから、グラスコードを中心に、古着のバイイングや OEM による雑貨・アクセサリー制作など、幅広い展開を行うようになりました。さらに、お客様からのご要望に応じて商品開発や買付けにも柔軟に対応し、「いただいたご縁は大切に、まずは挑戦してみる」という姿勢で活動しています。

そのため「結局、何がメインなの？」とよく聞かれるのですが（笑）、実はその柔軟さこそが HANDLY の強みです。
社名の「HANDLY」は、家族のイニシャルを組み合わせたもの。H は夫婦、L はアメリカで一緒に過ごしたチワワのラッキー、Y は子どものイニシャル。小さな家族の絆を込めた名前です。

Q2　ヴィンテージとの出会い、ヴィンテージが好きになったきっかけは？

10代の頃から古着は好きでしたが、本格的にコレクションを始めたのはアメリカで生活していた時です。

パートナーの仕事の関係で、さまざまなフリーマーケットやスワップミートを巡り、気に入ったアイテムを少しずつ集めていました。

なかでも印象に残っているのは、各家庭のガレージ前に不要なものを並べて週末だけ近所向けに販売する「ガレージセール」。ガレージにため込んだものを次の人に託す――
そんなリサイクル精神にとても惹かれました。とはいえ、あくまで “楽しみながら気軽にやる” というアメリカらしい軽いノリが、また魅力的だったのです。

そして、パートナーのバイクやサーフィン仲間のおひとりとして、古着イベント『Inspiration』を主催されている田中凛太郎さんとご縁をいただいたことも大きなきっかけでした。仲間内やマニアの間でしか流通しないリアルヴィンテージのアイテムを撮影し、一冊の本にまとめ、その背景やストーリーを伝える――その取り組みには深く感銘を受けました。その経験があるからこそ、私たちも MUSE さんへ古着を納品する際には、独自の切り口で製作した小冊子を添えさせていただいています。アイテムそのものだけでなく、その “背景” までお届けしたい、という想いを込めて。

Q3　私物のお宝を見せてください！

LA に住んでいた頃、La Brea Ave にあるアメリカンラグシーの店舗前で、偶然エリック・クラプトンさんと藤原ヒロシさんをお見かけしました。あまりの興奮に、思わず車へ走って戻りサインペンを取りに行き、そのまま追いかけて声をかけました。その時穿いていた Levi’s 501 66 のデニム（写真 1）にクラプトンさんがサインをしてくださり、さらに握手までしていただいたんです。今でも大切にしている、私にとっての “お宝” です。
ただ、あのとき横で優しいまなざしを向けながら、うんうんと頷いてその様子を見ていた藤原ヒロシさんにも、サインをお願いしておけばよかったなぁ…と。今でもちょっと後悔しています（笑）。（Hiroko）

目的地は、ハーレー乗りの聖地として知られるサウスダコタ州スタージス。そこで、当時私にとってヒーロー的存在だったチョッパービルダー、バット・ケネディさんに出会い、サインをいただきました。さらにその場で、バット氏が製作したバイクに跨らせてもらい、胸が高鳴るような興奮を味わったのを今でも鮮明に覚えています。
その時手に入れたのが、この90年代シングルステッチのショップ T シャツ（写真 2）。一見すると大きな金銭的価値はないかもしれません。けれども、自分自身の体験と結びついた “セルフヴィンテージ” のアイテムには、値段では測れない特別な価値があると考えています。（Eddie）

HANDLY
- apparels -
comming soon!
GLASS CHAIN
この秋、入荷予定！グラスチェーンは
MUSE LOVER マストハブアイテム！

Handly sequential chain short

Handly ball chain

Q4　主にロサンゼルスからのセレクトだと思います。ロサンゼルスでおすすめの場所はありますか？

住んでいた頃はおすすめしたい場所が本当にたくさんあったのですが、今は買い付けで弾丸訪問することが多く、新しいお店を開拓できていないのが正直なところなんです（笑）。それに、ロサンゼルス自体も大きく様変わりしていて、昔のようなおおらかさが少し薄れてしまったように感じています。

それでも今も強く印象に残っているのは Tartine Santa Monica。サンフランシスコ発のベーカリー＆カフェで、お庭でいただくパン料理とラテが本当に美味しくて。次に行くときは、ぜひワインも一緒に楽しんでみたいと思っています。

もうひとつおすすめしたいのが The Broad。ブロード夫妻が設立した現代美術館で、外観は蜂の巣のようなユニークなデザイン。館内には自然光がたっぷりと差し込み、明るく開放的な空間になっています。アート好きな方はもちろん、そうでない方でも気持ちよく過ごせて、一日中楽しめる場所だと思います。

Q5　HANDLY の古着は、サイズ感しかり、状態もベスト！

そんなふうに言っていただけて、本当に嬉しいです。
コンセプターの佐藤さんとは、昔の職場で先輩・後輩の関係としてご指導いただき、仕事に対する姿勢を学ばせていただきました。あの頃は、時代背景もあってかとても厳しい職場でしたが（笑）、その後、数年前に改めてご縁をいただいてからは、公私ともに大変お世話になっています。お会いするたびに感性や価値観の引き出しが広がるような “おしゃれのスパイス” をいただいていて、自分にとってとても大切な存在です。

また、MUSE さんの Instagram も普段から拝見しており、その上品で洗練された世界観にいつも感動しています。そんな MUSE さんのセレクトに調和するように、私自身も 70～80年代の古着の中から、遊び心や当時のカルチャーを感じさせるグラフィックや、少しエッジの効いたアイテムを意識して選んでいます。

単に “かわいい” や “かっこいい” というだけではなく、今の空気感にヴィンテージならではのストーリーやユーモアをさりげなく添えられるように。そんな “大人が自然に楽しめる古着” をお届けしたいという思いでセレクトしています。

さらにカタログでは、アイテムに施されたグラフィックの背景やエピソードも紹介しています。モノとしての価値だけでなく、その裏にあるストーリーまでお客様に楽しんでいただけたら嬉しい、という気持ちで制作しています。

そして実は、うちのパートナーも古着 T シャツが大好きなんです。私があまり選ばないような乗り物系、ミュージック系、ご当地ものなど、メンズライクなデザインやサイズをピックしています。パートナーは「これを着ていたのはどんな人だろう」と想像を膨らませながら選んでいることもあって（笑）。ただ、ときに思い入れが強すぎてお客様目線から離れてしまうこともあるので、そこは私がうまくバランスを取っています。

Q6 今回の” 戦利品” を教えてください

今回の “戦利品” は、MAFCO 製のヴィンテージピン PINS TRUE TO LIFE です。アメリカでかつて製造されていた、州の形をデザインしたクロワゾネ（七宝焼き）エナメルピンのシリーズで、70～80 年代のアメリカ文化や旅の記憶をそのまま閉じ込めたような特別なアイテムなんです。

単品のピンは市場でも見かけますが、オリジナルボードにセットされ、しかも当時のプラスチック製の留め具まで揃っているものには、なかなか出会うことができません。まさにコレクターズアイテム。古き良きアメリカのカルチャーと、ヴィンテージに宿る物語の力を改めて実感させてくれる、大切な一品です。
このピンとの出会いは、ロサンゼルスでの仕入れではなく、ロングビーチに拠点を構え、ヴィンテージ愛好家から絶大な信頼を集める Meow Vintage の Katさんから。
昨年 11 月、恵比寿で開催された『Inspiration TOKYO』の会場でバイイングさせていただきました。買付けの際にはいつも大変お世話になっていて、今回も素敵なご縁から手にすることができたアイテムです。
そして今年も Kat さんが『Inspiration TOKYO』に来日されるとのことで、再びお会いできるのを心から楽しみにしています。

SPECIAL ITEMS!

このチャームは、オリジナルデカールを使い、透明なケースに閉じ込めた “小さな記憶のかけら”。キーホルダーとしてはもちろん、バッグや旅道具にそっと添えればどこか懐かしい風が吹き抜けます。まるで、かつての旅の記憶を封じ込めたような静かな存在感を持つチャームです。
裏面には、「もう使われることはないけれど、今も確かに魅力を持ち続けている」ことを綴ったメッセージカード（本誌の表紙写真）を同封。それは、単なる装飾品ではなく、“ 旅する心” をそっと持ち歩くためのアイテムです。
どれもが一点もの。印刷のわずかなズレ、かすれたライン、色あせた発色ーーそれらは単なる “劣化” ではなく、長い時を旅してきた証のようなものです。時代に取り残されたデッドストックのデカールたちには、当時の空気や匂いまで閉じ込められているかのよう。
新品では決して味わえない、偶然が生んだ風合いや表情を、そのまま受け取ってほしい。完璧じゃないからこそ愛おしい。このチャームには、そんな “ものの味わい方” がそっと詰まっています。

Product Photos & Text
HANDRY

Production
SOUGEN DESIGN
Matsuzaki

Photos
NACHO and ADRIAN

@HANDLY_APPARELS　@NACHO710　@A,D,PHOTOGRAPHY210

MUSE de Deuxième Classe

@MUSE_DE_DEUXIEMECLASSE　@HOW_TO_MUSE

SHOP INFO
ROPPONGI
03-5413-3607
MARUNOUCHI
03-5220-2121
TORANOMON
03-3528-8262

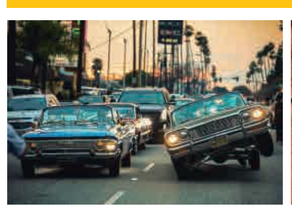
All rights reserved

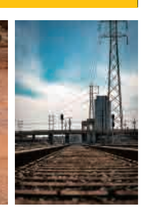
VINTAGE LOVERS

The theme for MUSE's Fall / Winter 2025 issue is “VINTAGE LOVERS.”
We will be publishing a series of articles featuring people
who love vintage and add color to MUSE.

vol.1

“Cherish vintage garments with this bag and your love.”





グレーボディに深いバーガンディのプリントが映える、スタンフォード大学のＴシャツ。
大胆にネイティブアメリカンの横顔が描かれ、現在では見られない貴重なデザインが施された一枚です。

インパクト抜群のスパイラルタイダイ。90年代カルチャーの匂いを色濃く残した、唯一無二のタイダイＴ。

CBGBとは“Country, BlueGrass, and Blues”の略。「OMFUG」は“And Other Music For Uplifting Gormandizers”ー直訳すれば、「音楽に飢えた者たちの魂を高揚させる音楽」。

おそらくインディアナポリスにあったライブハウスのＴシャツ。バックプリントの「TWO STEPPIN AND LONG NECKIN」は「ツーステップを踊って、瓶ビールを楽しもうぜ！」。

Carhartt「6BLC」ブラウン ヴィンテージモデル。歴史を感じさせるヴィンテージチョアコート。コーデュロイ襟や真鍮ボタンなど、クラシックなディティールも印象的。

ロンドンの街をクラシックカーで気ままにクルージング中のスヌーピー。どこかレトロな雰囲気が魅力の、イングランド土産風Ｔシャツ。ピーナッツファン必見の一枚です。

SKOAL はアメリカの無煙タバコブランドで、当時モータースポーツチームのスポンサーとしても活躍。グレーボディに大胆なプリントが目を惹くスウェットです。

バックに“FRYING TIGERS”と“WARDAIR”のロゴが大胆にプリントされた、軍事・航空カルチャーが融合されたＴシャツ。

アメリカ・ミシガン大学のロゴが映える、ネイビー× イエローの王道カレッジカラーが魅力の一着です。実はマドンナが通っていたことでも知られています。

L.L.Bean 本社のあるメイン州の工場で、今も職人の手によって一つひとつ丁寧に縫製されているもこのバッグの魅力のひとつ。アメリカ製の誇りとクラフトマンシップが細部にまで宿っています。

杢グレーのボディに、無駄のない“ARMY”プリントが映える一着。実際にアメリカ陸軍で使用されていたトレーニングウェアと同型のデザインで、無骨さと機能美が際立ちます。

アメリカを代表するコカ・コーラのレーシングデザインが際立つヴィンテージ Tシャツ。90年代アメリカンカルチャーの躍動感をそのまま映し出した一枚です。

南カリフォルニア大学のＴシャツ。中央には大学の校章が堂々とあしらわれ、1980～90年代らしいカレッジスーベニアらしさが漂う一着です。

アメリカの老舗ビールブランド「ブッシュ」のノースリーブ Ｔ シャツ。グレーのボディに、鮮やかなロイヤルブルーのロゴがひときわ映える一枚。

1980年代頃の Collegiate Pacific 製、アイダホ州立大学デザインのディズニー公式Ｔシャツ。
当時のカレッジスウェットやアメリカンカルチャーを象徴する一枚。

アメリカ東部の強豪、シラキュース大学バスケットボールチームを称えるスウェット。
「東の猛獣」のキャッチコピーとともに、ダンクを決める巨大アームがインパクト抜群。

「速さこそが正義」ビックドッグたちの世界に飛び込む覚悟がある者だけが袖を通せる、攻めた一着。フロントにはトップフューエルを思わせるマシンと挑発的なスラング、バックには究極の選択「速いか、最下位か」。

1960 ～ 70 年代、アメリカのハイウェイ沿いで販売されていたステートデカール。旅人たちはその土地の記憶として、車の窓やスーツケースに貼り付け、冒険の足跡を刻んでいきました。

大学に通う子どもを応援するために、母親が着ていたと思われる一枚。
愛らしいミニー風キャラクターが中央に描かれた「IOWA UNIVERSITY」のプリントが目を惹きます。

アメリカン・ホットロッド文化を象徴する1989年開催「ノースウェスト・ストリートロッド・ナショナルズ」のイベント Ｔ シャツ。アメ車カルチャーやヴィンテージ Ｔシャツファンにとってはたまらないアイテム。

サンディエゴ動物園のスーベニアとして販売されていた、ヴィンテージのタイガープリント Ｔシャツです。強烈な存在感を放つ一着で、静かに獲物を見据える虎の姿が大胆に描かれています。

1989 年に開催された、Ty-Rods 主催の第 16 回スワップミートを記念したヴィンテージ Ｔ シャツ。ホットロードカルチャーの象徴ともいえる Willys クーペとTバケットと配置。コレクター垂涎の一枚です。

こちらのヴィンテージキーリングセットには、1970～ 80 年代のアメリカの空気をぎゅっと閉じ込めました。いずれも当時実際に使われていたオリジナル品です。

イギリスを代表する名車、ジャガー。思わずクスッと笑ってしまうような表情のジャガーに、立体感のあるパフプリントが組み合わさり、インパクトも抜群。

アメリカ海軍の訓練施設でのブートキャンプを乗り越えた息子を称えて作られた、家族向けのプロモーショナル Ｔ シャツ。ユーモラスなグラフィックが大きくプリントされています。

ローラースケートで列車を演じるという前代未聞の演出で話題をさらった異色ミュージカル、「スターライト・エクスプレス」の公演時に販売されていたＴシャツ。

アメリカの名門ペンシルベニア州立大学のマスコットのニタニー・ライオンズをモチーフにした、クラシックなカレッジ Ｔシャツ。ネイビーのプリントが映える王道のカラーリング。

70’sのアメリカで使われていた缶バッジ。
色褪せ、擦れ、ヘコミすらも愛おしく感じられるバッジたち。それは、過ぎ去った時代の空気や記憶を今に伝えてくれる「小さなメディア」。

「良い大学に行く理由？それは憧れのこの４台のため。」世界の名だたるスーパーカーのエンブレムが並ぶ、ユーモアたっぷりの一枚。

カリフォルニア州が誇る大自然、ヨセミテ国立公園のスーベニア Ｔ シャツ。あのおっちょこちょいな天才キャラ「ワイリー・コヨーテ」が堂々登場。

ミネソタ大学ダルース校のホッケーチームのスウェット Ｔ シャツ。ブルドッグのマスコットが力強くプリントされています。

ウエストバージニア大学のカレッジスウェット。中央にあしらわれた大学のエンブレムと「West Virginia University」のクラシックな書体が堂々と並び、知性と重厚感を兼ね備えた一着に仕上がっています。

HANDLY APPARELS

HANDLY APPARELS